

## 経済安全保障重要技術育成プログラムの中間評価結果報告

経済安全保障重要技術育成プログラム／長距離物資輸送用無人航空機技術の開発・実証

① 事業テーマ名
ハイブリッドVTOL機の技術開発と実証
② 事業者名
株式会社コントレイルズ（代表機関） 株式会社ザクティ、株式会社ジェイテクト、株式会社NTT e-Drone Technology、 ヤマハ発動機株式会社、学校法人金沢工業大学、学校法人静岡理工科大学（共同提案）
③ Kプロ運用・評価指針の視点
<ul style="list-style-type: none"><li>研究開発ビジョンの達成及び研究開発構想の実現に向けた研究開発課題の達成目標や内容の妥当性</li><li>研究開発課題の達成目標に向けた進捗状況（国内外とも比較）及び今後の見通し（含む、多様な分野における活用の実現可能性）</li><li>研究開発課題における実施体制の構築状況</li><li>研究資金の効果的・効率的な活用</li><li>国民との科学・技術対話に関する取組</li><li>意見交換会において合意された内容の進捗状況</li></ul>
④ 研究開発構想に定める達成目標
<ul style="list-style-type: none"><li>研究開発項目① 機体構想及び機体設計 2024年度までに、性能要件A、B、C（※）を満たす機体構想の基本方針を固めて、構成要素に対して最適な要求性能を割り当てる。次に2025年度までに機体の基本設計を完了させる。 （※）…機体の性能要件A、B、Cは次のとおり。<ul style="list-style-type: none"><li>A) 最大ペイロードが50kg程度であること</li><li>B) 最大航続距離が1,000km程度であること</li><li>C) 垂直離着陸が可能であること</li></ul></li><li>研究開発項目② 重要要素技術の開発 2025年度までにそれぞれの重要要素技術の開発・評価を終え、研究開発項目①の機体構想で割り当てた要素ごとの要求性能を達成することを確認する。</li></ul>
⑤ 総合評価
B
⑥ 総合コメント

国内外のベンチマークを適切に行い、国際的にも競争力のある開発目標を設定している点は評価に値する。また、目標達成に向けて必要な仕様変更を戦略的に進めている点も高く評価する。さらに、コンソーシアム内での連携が円滑で、課題の解決に着実に取り組んでいる点も評価すべき点である。

今後は、1次試作機での動作確認を確実に進めた上で、2次試作機における軽量化目標の達成に向けた開発をさらに深めていくことを期待する。また、ジェット燃料や SAF への対応は将来重要性が高まる技術であり、今後も計画的に開発を進めることを期待する。加えて、成果の公表については、展示会出展などの目標を設定し、積極的に情報発信を行うことが望まれる。